

(4) MSMにおける薬物使用に対処する啓発・支援方策に関する研究

研究分担者：生島 嗣(特定非営利活動法人ぶれいす東京 代表)

研究代表者：樽井 正義(特定非営利活動法人ぶれいす東京)

研究協力者：山口 正純(武南病院)

三輪 岳史(特定非営利活動法人ぶれいす東京)

大槻 知子(特定非営利活動法人ぶれいす東京)

野坂 祐子(大阪大学)

研究要旨

本研究では、2016年に実施したLASH調査のデータを基に、友人から薬物について相談された時に適切な対応ができるよう、各地のMSM向けに薬物使用に係る啓発活動を実施した。具体的には、MSM向け健康情報発信ホームページを立ち上げ、各地のクラブイベントで参加者向けに周知を行った。また、10代～20代の若者向けに薬物使用や性感染症に関するワークショップを実施し、ピア・サポーターの養成を試みた。薬物含む依存症や性感染症に関する専門家等を招いたワークショップでは、参加を通じて各テーマへの関心が高まることが示唆され、継続的な実施が参加者より強く望まれた。今後、薬物使用に係る多様なソーシャルサポート・ネットワークを構築していくためには、より幅広い層の若年層のMSMをワークショップに誘致する工夫や、本研究で連携が強化された他法人との協力体制を活かして、多様な予防の選択肢を啓発活動にてコミュニティに提案して行くことが求められる。

A 研究目的

MSM(男性とセックスを行う男性/Men who have Sex with Men)の薬物使用や性生活等に関する自己回答式インターネット調査(LASH: Love Life and Sexual Health)を2016年9月22日～同年10月22日に実施した。その結果、薬物を使用しているのを見たことがあると回答した人の割合は41.4%(2,865/6,921)、薬物使用を勧められた経験がある回答者の割合は36.1%(2,498/6,921)など、MSMを取り巻く環境に身近に薬物使用が存在することが明らかになった。この調査では、薬物を性行為時に併用される可能性がある幅広いものを想定した。生涯薬物使用経験者は25.4%(1,756/6,921)で、その開始年齢は、10歳未満が0.2%(4/1,756)、10～15歳が2.8%(50/1,756)、16～19歳が17.8%(313/1,756)、20～24歳が37.5%(659/1,756)、25～29歳が22.8%(400/1,756)で、使用経験者の約8割が10～20歳代で薬物使用を開始しており、若年層への啓発の必要性が示唆された。さらにMSM

の間では、薬物使用とHIV感染リスクの高い性行動に強い関連性がある可能性が示唆された。薬物使用に関する相談相手、情報提供者となりうるのは友人やパートナーであることがHIV陽性者を対象にした調査からは示唆されている(若林、2014)。そこで本研究では、友人から薬物について相談された時に適切な情報提供や対応ができるよう、MSMコミュニティ向けの啓発活動を試行した。

B 研究方法

LASH調査で得られたデータを基に、「Stay Healthy - and be HAPPY! -」というキャンペーンのホームページを立ち上げた。

このサイトに掲載する支援的なリンク集を作るにあたり、依存症に関する啓発、教育に取り組むNPO ASKとの協力関係を構築した。ASKでは、1次予防として「発生の防止」、2次予防として「進行の防止」、3次予防として「再発の防止」掲げ活動している(特定非営利活動法人ASK)。

これを参考に下記3つの企画を行った。

1番目と2番目の企画は薬物使用に関する2次・3次予防として、3番目の企画は主に1次予防として位置付けて実施した。

1. MSM 向け健康情報発信ホームページの立ち上げと関連団体とのネットワーク強化

「健康ってだいじ！カラダもメンタルも。友達や恋人から相談されたときこのウェブサイトを役立ててください」といったメッセージをトップ画面に表示し、薬物依存症を含むメンタルヘルスや HIV に関する情報を掲載し、個人や当事者が活用しやすい情報を掲載した。また、スマートフォンからの見やすさにも配慮をした。掲載情報は、HIV、メンタルヘルスなどの情報に加えて、さまざまな依存症の解説ページ、専門医による解説動画、自助グループ、治療機関、精神保健福祉センターなどの、個人や周囲の人が必要になったときに役立つリソース情報も掲載した。今後は、依存症当事者による体験談、LASH 調査の結果、関連する研究成果も掲載していく予定である。また、ホームページへのアクセス状況を観察するために、Google Analytics にて解析ができるようにしている。

ホームページの紹介カード



2. クラブ・イベントにブース出展し啓発

MSM が多く参加する東京にて開催されたクラブ・イベントにおいて啓発を実施した。プレ介入として、30～40代を中心に集客が見込まれるクラブ・イベント A にて主催者に協力を得て、2019年4月28日

(日)、4月29日(月・祝)、7月14日(日)の3回にわたり、会場内にブースを出展した。このトライアルでのブースにて、HIV や STI、薬物に関する既存のパンフレットやコンドームなどの配布を行った。

プレ介入での経験を活かして啓発活動(本介入)を実施した。当初は「Clean & Sober」(未使用&シラフ)というメッセージを用いることを検討していたが、クラブ関係者の意見を聞き、よりポジティブな文脈でのメッセージに変更し、展開することにした。「Stay Healthy」キャンペーンに関するグッズ(缶バッジつきホームページ宣伝カード)をクラブ参加者に対して、出入り口、ブースにて配布した。

クラブ・イベント A (30～40代が多く参加、参加者数は200～300人)にて、初回の本介入を2019年10月13日(日)と10月14日(月・祝)に実施した。さらに、出会い系クラブ・イベント B (20歳前後が多く参加、参加者数は200～300人)にて、11月2日(土)と11月9日(土)に2回目の本介入を行った。その後、クラブ・イベント A にて第3回目の介入を12月20日(金)と12月22日(日)に実施した(表4.1参照)。

表4.1 クラブ・イベントの日程

	場所	日程
プレ介入	クラブ・イベント A	2019年4月28日(日) 2019年4月29日(月・祝) 2019年7月14日(日)
本介入(初回)	クラブ・イベント A	2019年10月13日(日) 2019年10月14日(月・祝)
本介入(第2回)	クラブ・イベント B	2019年11月2日(土) 2019年11月9日(土)
本介入(第3回)	クラブ・イベント A	2019年12月20日(金) 2019年12月22日(日)

クラブ・イベントでの啓発用Tシャツ



3. 10代～20代 MSM 向けワークショップの実施

「ゲイ・ユースのためのピア・サポーター養成講座2020」という名称で、2020年2月22日(土)～2月23日(日)の2日間、ワークショップを行った。薬物使用開始年齢として最も多い10代～20代の若年

層の中で、情報発信ができるピア・サポーターを養成することを目的に実施した。

参加者のリクルートは、MSM 向けアプリへの広告の出稿や SNS への投稿を通して行った。また、クラブ・イベント関係者、新宿二丁目のゲイバー関係者、NGO などにも協力を依頼した。さらに、推薦制度を設け、運営者から次世代の 10～20 代 MSM の参加を勧めるという枠を設けた。これは、今後、コミュニティで影響力のある若者の参加を促すための仕組みづくりとして機能させたいと企画した。

講座の内容は、LGBTQ、性暴力被害・加害、法律と弁護士の使い方、依存症、性のコミュニケーション、HIV 含む性感染症、PrEP 等のテーマであり(表 4.2 参照)、当分野の専門家やインフルエンサーを講師に招いての参加型研修を行った。受講後に受講前後の知識・関心度・必要性の認識の変化に関する量的な情報(「とてもある」～「まったくない」の 4 件法)と、各テーマへの感想や意見をアンケート形式で聴取した。参加に至る情報源、動機、過去の薬物使用経験についても質問した。

(倫理面への配慮)

調査対象者には、研究への協力は任意であり、協力しなかったことによる不利益はないことを説明した上で、参加への同意を得た。調査用紙は無記名・自己記入式で、回答をもって研究への参加に同意したこととした。また、参加者の回答内容は、個人が特定されないよう加工した上で、公表することとした。

表 4.2 ゲイ・ユースのためのピア・サポーター養成講座 2020 のコンテンツ一覧

日程	内容
2月22日(土)	知っておきたいLGBTQ概論
	元ゲイのトランスジェンダーから
	ゲイ・バイセクシュアル男性の性暴力被害と加害
	法律、弁護士の使い方
	アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存の基礎知識
2月23日(日)	ブルボンヌ先生と一緒に考える、いかに上手にNOを伝えるか
	性感染症、HIVとその予防や治療
	HIV、PrEP、薬物使用など
	しくじり先生 talk ~ HIV陽性者、薬物で逮捕者、アルコール依存者
	ワークショップ~ StayHealthy.tokyoの宣伝プランを考えよう

ゲイ・ユースのためのピア・サポーター養成講座 2020 のフライヤー



ゲイ・ユースのためのピア・サポーター養成講座 2020

日時 2020年2月22日(土)~23日(日)10時~16時30分

応募条件 10代~20代ゲイ男性 男性とセックスをするトランスジェンダーの方もご参加いただけます

受講料 無料 ※研修費で実施するので、最後にアンケート記入などの協力をお願いいたします

参加人数:30名程度
対象:ゲイ・バイセクシュアル男性、途中のため、友達・恋人のために知っておくべき役立つことを身につけたい人。
推薦(ゲイバーのママ、CLB関係者、発表場スタッフ、サークル、漢字など)がある方、全プログラム参加可能な方を優先します。推薦がない方もぜひご応募ください。
会場:新宿南店(参加が済んだ方に直接お伝えします)

DAY1:2月22日(土)

10:00~10:15 オリエンテーション
10:30~11:30 知っておきたいLGBTQ概論:松岡宗嗣
元ゲイのトランスジェンダーから:よしかん(新宿区議会議員)
12:30~14:00 ゲイ・バイセクシュアル男性の性暴力被害と加害:
岡田美穂(Broken Rainbow-Japan)
法律、弁護士の使い方(山下敬雄(弁護士))
14:30~15:30 アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存の基礎知識(今成知美(NPO法人ASK))
司会:塚本健一(ASK認定依存症予防教育アドバイザー/元NHKアナウンサー)
15:30~16:30 ブルボンヌ先生と一緒に考える、いかに上手にNOを伝えるか~リアル・パーソナル編
ファシリテーター:ブルボンヌ(女医家・コラムニスト)、今成知美(NPO法人ASK)
振り返り

DAY2:2月23日(日)

10:00~11:30 性感染症、HIVとその予防や治療:上村悠(国立国際医療研究センター
エイズ診療・研究開発センター/SH外来)
HIV、PrEP、薬物使用など:生島剛(@いず東京)
13:00~14:00 しゅじり先生talk~HIV陽性者、薬物で逮捕者、アルコール依存者 司会:塚本健一
14:00~15:30 人気者のゲストも参加予定!
ワークショップ~StayHealthy.tokyo(https://stayhealthy.tokyo/)の
宣伝プランを考えよう 申し込みはこちらのQRコードから!
~16:30 振り返り https://form.run/@ixymama-2004

主催:2019-2020年度東京都精神学研究会(公益社団法人東京都精神学協会) 協賛:MSM&HIV感染・薬物使用を予防する支援策の研究
研究員:生島剛(認定NPO法人ASK代表)

C 研究結果

「StayHealthy」のホームページへのアクセスについては、本介入(初回)では10月12日は43件、13日は161件、14日は229件、15日は102件、16日は21件のページビューがあった。一方、本介入(第2回)の11月2日は17件、3日は58件、4日は37件、5日は16件のページビュー、11月8日は12件、9日は15件、10日は8件のページビューにとどまった。本介入(第3回)の12月20日と22日には、ページビュー数の増加が認められなかった。

「ゲイ・ユースのためのピア・サポーター養成講座 2020」には 20 名を超える申し込みがあった。また、年齢は対象外だが、オブザーバーとしての参加希望者が 5 人いた。しかし、コロナウイルス感染症流行の影響により、直前のキャンセルが相次ぎ、結果的には申込者数の約半数の参加者に留まった。初日は 12 人、2 日目は 10 人の参加、オブザーバーが 3 人であった。

参加に至る情報源としては Twitter (72.7%, 8/11) がもっとも多く、続いてゲイ向け出会い系アプリであった。性別、セクシュアリティは全員がゲイ・バイセクシュアル男性であった。参加者の平均年齢は 26.5 歳だった。多くは首都圏からの参加であったが、一人は遠隔地からの参加者であった。参加の目的としては、複数回答で自分のために 100% (11/11)、友人のために 36.4% (4/11)、パートナーのために 45.5% (5/11) であった。誰かの薬物使用を目撃した経験は 45.5% (5/11)、これまで薬物使用を誘われた経験は 36.4% (4/11)、使用した経験は 27.3% (3/11) であった。

元々 HIV を含む性感染症や予防法への関心が高い参加者が多かったが、講座受講後における関心度、知識、自身が感じる学習の必要性は、全てのテーマにおいて受講前より上昇する傾向があった。特に講座受講前は比較的関心が低かった弁護士の使用やその他の依存症については、受講後に統計的に有意に高まっていた (Wilcoxon signed ranked test: $p < 0.05$)。各セッションの内容に関する評価も良く、特に依存症当事者を招いたトークショーを通して、依存の背景にあるセクシュアリティに起因した生きづらさを自分事として実感している参加者が多かった。以下に参加者の感想を一部抜粋する。

“当事者の方のお話に迫力を感じ、心打たれた。”
“依存症、薬物は自分の身近に存在することを改めて知った。”
“(依存症当事者の話が) とても自分にとって他人事に思える問題ではなかった。”
“依存をすることが自分にも起こることで、自分を見つめなおすことの大切さがわかった。”

D 考察

本研究では、薬物使用を含めた役立つ情報に関するホームページを立ち上げ、クラブ・イベントで情報発信を行った。30～40代が主に参加するクラブ・イベントでは、介入当初は反応がある程度あったが、数を重ねるうちに反応が弱くなった。これは、複数回参加する人たちの存在が関連していると思われる。20代 MSM が多く参加するイベントは、出会い系のクラブ・イベントでもあったためか、配布によるホームページへのアクセスは低調であった。一方、薬物使用だけの啓発活動は商業ベースの空間で実施するのは困難だが、「あなたやあなたの大切な人に役立つ情報」という文脈で、アルコールやギャンブルと一緒に薬物依存に関するメッセージを発信することで、参加者から受け入れやすくなる可能性が示唆された。

LASH 調査が示すように、薬物使用を開始する年齢は 10 代～20 代が最も多い。そこで本研究では、若年層 MSM をターゲットにしたワークショップも実施した。参加者のリクルートは SNS やゲイ向け出会い系アプリでの周知が効果的であった。しかし、コロナウイルス感染症流行に対する不安で直前のキャンセルが相次ぎ、参加者は予定していた人数の約半分となった。ワークショップの実施自体は各テーマに関する参加者の関心を高める可能性が示唆されたが、今回の参加者は元々テーマに対する関心が強く、ある程度の知識を持つ集団であることに留意する。本ワークショップではゲイバーやゲイクラブのスタッフの参加も期待されていたが、実現することは出来なかった。協力を依頼したゲイバーやクラブ・イベントの関係者への事前/事後の聞き取りからは、今回のような日中の長時間に及ぶワークショップに、夜間働くお店のスタッフが参加することは難しいという意見が確認できた。薬物使用に係るインフォーマルなサポート・ネットワークを構築するためにも、今後は関係者とワークショップの開催日時について事前に協議する必要があるだろう。

また、本研究では、NPO 法人 ASK との協力関係により、多様な依存症に関する啓発や教育の視点を含めることができた。1 次予防として「発生の防止」、2 次予防として「進行の防止」、3 次予防として「再発の

防止」というレベル分けは、MSM の薬物使用に係る啓発活動においても参考になる概念である。この協力関係を今後も活かし、情報提供や多様な予防策を組み合わせた COMBINATION 予防という概念を反映した啓発活動に取り組んでいく必要がある。

E 結論

本研究では、MSM が友人から薬物について相談された時に適切な対応ができるよう、各地で薬物使用に係る啓発活動を実施した。ホームページの立ち上げを通して、薬物使用だけに特化せず、「Stay Healthy」という健康に関する幅広い文脈を用いることで MSM により受け入れやすくなることが示唆された。また、専門家やインフルエンサーを招いたワークショップの開催を通して、性感染症や薬物使用といったテーマに対する参加者の関心度を高めることが期待できる。一方、薬物使用に係る多様なソーシャルサポート・ネットワークを構築していくためには、より幅広い層の若年層の MSM をワークショップに誘致する工夫や、本研究で連携が強化された他法人との協力体制を活かして、多様な予防の選択肢を啓発活動にてコミュニティに提案して行くことが求められる。

参考文献

- 1) 若林チヒロ、生島嗣、大槻知子. 2014. 身近な人から薬物使用について相談されたら 厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業 地域において HIV 陽性者等のメンタルヘルスを支援する研究, 1-4.
- 2) NPO ASK、ASK が目指す3つの「予防」. [https://www.ask.or.jp/article/about/ask が目指す3つの「予防」](https://www.ask.or.jp/article/about/ask%20が%20目指す%203%20つの%20「%20予防%20」) (最終閲覧日: 2020年3月31日)

F 研究発表

1. 論文発表

- 1) 生島嗣. ゲイ・バイセクシュアル男性のネットワークと相談行動— HIV・薬物使用との関連を中心に. 松本俊彦編, 「助けて」が言えない SOS を出さない人に支援者は何ができるか. 日本評論社. 218-230, 2019.

2. 学会発表

- 1) 生島嗣、三輪岳史、山口正純、大槻知子、水島大輔、

岡慎一. GPS 機能付きアプリケーションを利用する MSM における PrEP の利用経験とその実態 (1). 日本エイズ学会、2019年、熊本.

2) 山口正純、三輪岳史、大槻知子、生島嗣、水島大輔、岡慎一. GPS 機能付きアプリケーションを利用する MSM における PrEP の利用経験と実施実態 (2). 日本エイズ学会、2019年、熊本.

3) 横幕能行、高橋秀人、生島嗣、伊藤公人、今橋真弓、渡邊真理子. 職場における HIV 感染症 / AIDS の検査機会提供の有用性と課題. 日本エイズ学会、2019年、熊本.

4) 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、カエベタ亜矢、関なおみ、城所敏英、根岸潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史. 保健所・検査所における HIV 検査・相談体制と実施状況および課題に関するアンケート調査. 日本エイズ学会、2019年、熊本.

5) 本間隆之、岩橋恒太、生島嗣、貞升健志、長島真美、市川誠一、今村顕史. MSM に向けた HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅」3年間の取り組み. 日本エイズ学会、2019年、熊本.

6) 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、カエベタ亜矢、関なおみ、城所敏英、根岸潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史. 保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査. 日本エイズ学会、2019年、熊本.

7) 岩橋恒太、金子典代、高野操、岡慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠、荒木順、木南拓也、生島嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史. MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査 [HIVcheck.jp] のベニユーの拡大の試行. 日本エイズ学会、2019年、熊本.

8) 佐藤郁夫、加藤力也、生島嗣. 北関東における HIV 陽性者のためのピア・プログラムの立ち上げについて. 日本エイズ学会、2019年、熊本.

9) 佐野貴子、近藤真規子、土屋菜歩、須藤弘二、星野慎二、井戸田一郎、清水茂徳、生島嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤真吾、市川誠一、白阪琢磨、今村顕史. ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談情報の提供とサイト利用状況の解析. 日本エイズ学会、2019年、熊本.

10) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木順、金子典代、

生島嗣、西浦博、齋藤涼平 . MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討 . 日本エイズ学会、2019 年、熊本 .

11) Ikushima, Y. Chemsex situation among Japanese MSM Community. The 8th ILGA Asia Regional Conference, Aug 19-23, 2019, Seoul, South Korea.

12) Yamaguchi, M. Chemsex Situation among Japanese MSM Community. 1st Asia-Pacific Chemsex Symposium, Aug 9, 2019, Taoyuan, Taiwan.

13) Yamaguchi, M., Miwa, T., Ohtsuki, T., Ikushima, Y., Mizushima, D., and Oka, S. Change in awareness of, willingness to and utilization of PrEP over the past two years in Japan. The 10th IAS Conference on HIV Science, July 21-24, 2019, Mexico City, Mexico.

14) Ikushima, Y. Experiences of PLACE TOKYO: Challenges of Japan and Asia. The 5th AIDS Forum of Beijing, Hong Kong, Macau, and Taiwan, April 12-13, 2019, Taipei, Taiwan.

G 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

なし